

暴力防止プログラム

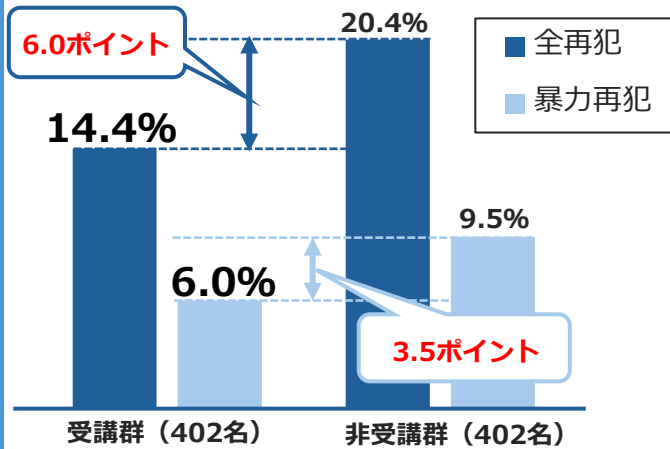


保護観察開始から2年間の再犯追跡調査

point

暴力犯罪に限らず、再犯抑止効果あり

受講群の2年以内の再犯率は、全再犯では非受講群の**0.71倍**、暴力再犯では非受講群の**0.63倍**に抑えられた



受講者に対するインタビュー調査

※調査対象者数：9名



プログラムの各課程の内容や保護観察官が寄り添う姿勢が再犯抑止効果に寄与



時間経過により、プログラムで学んだことが十分に実践できなくなっていた者あり

暴力防止プログラム
ワークブック

平成27年3月版

暴力防止プログラム
～子供に暴力をふるわないために～
ワークブック

令和元年7月版

検証結果

- ✓ 暴力防止プログラム受講による再犯率の有意な低下
- ✓ 児童虐待防止版の受講が一定程度、子どもの虐待傾向につながる親の心理状態を改善し、再犯抑止に寄与した可能性
- ✓ 各プログラムの内容が受講者の考え方や行動の変化に寄与した可能性

課題

- ✓ プログラム修了後のフォローアップのあり方
- ✓ 暴力抑止につながる考え方・対処方法を深めるアプローチ

暴力防止プログラム（児童虐待防止版）



保護観察開始から2年間の再犯追跡調査

- ◆ 受講群71名・非受講群99名
- ◆ 受講群の再犯率（1.4%）は非受講群の再犯率（4.0%）よりも低い

※調査対象者数や再犯者数の少なさから、統計的な分析は困難



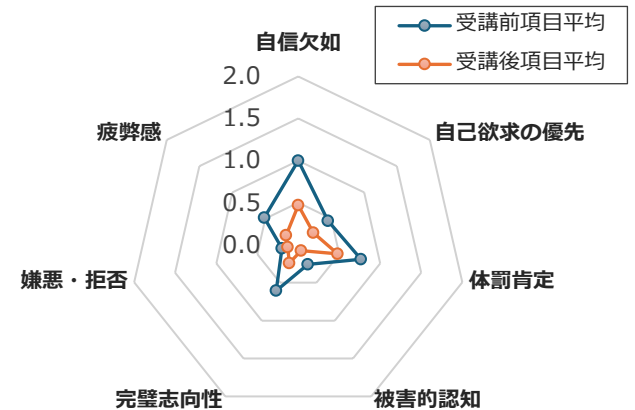
受講前後の心理的变化を図る質問紙調査

→児童虐待に関する心理尺度（PAAI-R）を使用

※調査対象者数：11名

point

受講前後で各下位尺度得点の低下



受講者に対するインタビュー調査

※調査対象者数：5名



子どもの傷付き等を学ぶことで暴力に対する考え方が改善



子どもと関わる場面の「危険信号」の認識・対処法が十分に実践できていない者あり

- 検証結果を踏まえ、効果をより高めるため、内容や実施方法の改訂（フォローアップの充実等）を実施する必要
- より長期間の再犯追跡期間を設け、受講者の特性等に応じた効果の違いなどについても調査・分析を実施する必要